

石神遺跡第5次調査現地説明会資料

1985年11月2日

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

立木 修

飛鳥寺の北西に接する石神遺跡は「須弥山石」「石人像」の出土地として知られている。当調査部では、この地域の性格を明らかにするために、石造物出土地および周辺の調査を1981年から継続的に行なってきた。その結果、石組溝・石敷・井戸を中心とする7世紀中頃の遺構と、その遺構を廃棄し大規模な整地をともなった7世紀後半の遺構、さらには藤原宮の時代の遺構の存在を確認した。とくに7世紀中頃と後半代では遺跡の性格は一変したと考えられるが、7世紀中頃・後半代ともに、ほぼ同じ位置で、東西堀で南の水落遺跡と画されることが明らかとなった。

今回の調査は第4次調査地の北に接した水田で、1985年7月10日から開始し現在継続中である。調査面積は約1000㎡で、これまでの調査総面積は約6000㎡である。

I 遺構

今回検出した主な遺構は建物10棟、堀5条、溝6条（暗渠も含む）、石敷、石組、土壇などであり、これらは4期に大別できる。

A期（7世紀中頃）

A-1期 調査区中央に東西棟の建物4、1棟がある。

A-2期 建物1・5、楼閣状の建物7、桁行16間以上の長廊状の建物9、建物の西に広がる石敷5、建物の雨落溝である石組溝6、建物9の東に広がる石敷4、4次調査で検出した井戸から北西へ曲折してのびる石組溝5（一部は暗渠）、石組溝5の両側に広がる石敷2などがある。

建物5・7は柱筋を揃え、柱掘形の一部には布掘りを行なっている。建物1も建物5の入側柱筋と柱筋をそろえており、これら3棟の建物は整然とした配置をとっている。建物7は他の2棟に先立って廃され、その位置に井戸からの導水路である石組溝5がつくられる。この溝の暗渠部分の上は、建物9の雨落溝（溝9）を改修した石敷4で舗装されたものと考えられる。石組溝5の南半とその周囲の石敷2は後に改修される。

B期（7世紀後半）

建物2・8、堀3がある。建物2は4次調査で検出した建物を含めて3棟の建物が柱筋をそろえて南北に並んだ、整然とした配置をしめしている。

C・D期（藤原宮期直前～藤原宮期）

建物3・6・10、堀1・4、溝1・2、石組、バラス敷などがある。

II 出土遺物

大量の土器、および瓦、金属製品、石製品が出土した。土器・土製品はB～D期の土師器・須恵器が大半で、円面碗および「釜五十戸」のヘラ描きをもつ須恵器壺の出土が注目される。金属製品は主に焼土・炭化物を含む遺物包含層から出土し、大多数は鉄製品で、鎌（ぞく）・釘・鋸（かすがい）・鎌・斧（おの）・やりがんな・刀子（とうす）・紡錘車（ぼうすいしゃ）・錫（つば）などがある。なお、青銅製の香炉蓋も出土している。石製品には砥石（といし）・石鋸・磨製石斧（ませいせきふ）があり、他に縄文土器も出土している。

III まとめ

A期は斉明朝にあたり、その時期の饗宴に関わる施設と推定しているが、今回、井戸を中心とした場所で短期間に数回の改修が認められたことは、A期の性格を考えるうえで重要な資料となろう。また、井戸からの水は石組溝5によって曲折しながら北へ導びかれ、さらに調査地北方へと暗渠を通過して流れていく。このため、南側を東西堀で区画された空間はさらに北へと広がっていくことが確認できた。

B期は天武朝にあたり、A期の建物・井戸・石組溝・石敷などは廃され、この区画内の大改造が行なわれた時期である。4×3間の南北棟が南北に整然と並んでおり、この時期の性格はA期の饗宴的な施設とは異なったものが考えられる。また南北堀3によってさらに東と西に分割されて、それぞれが異なった性格をもって使用されていたものと考えられよう。

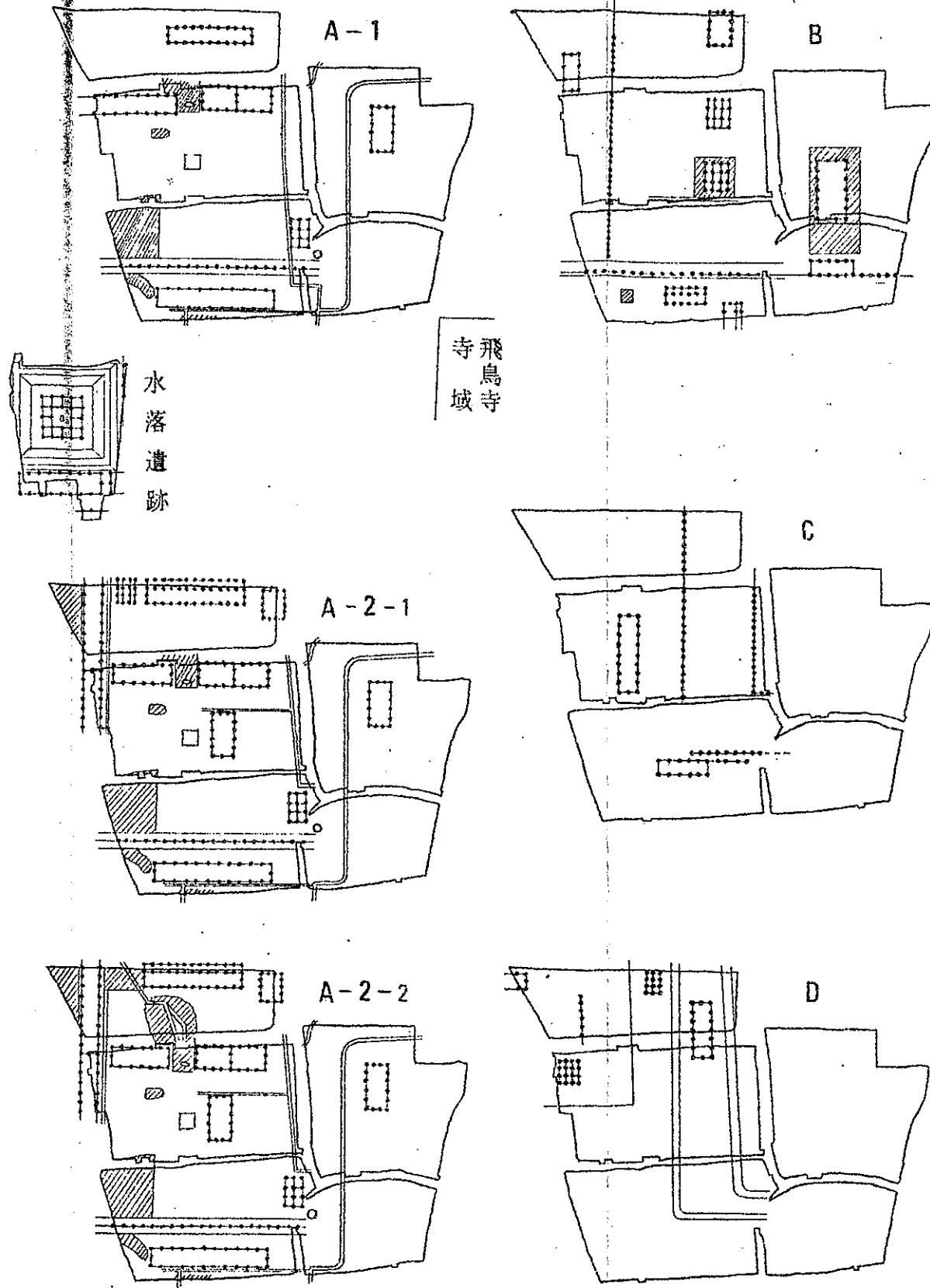
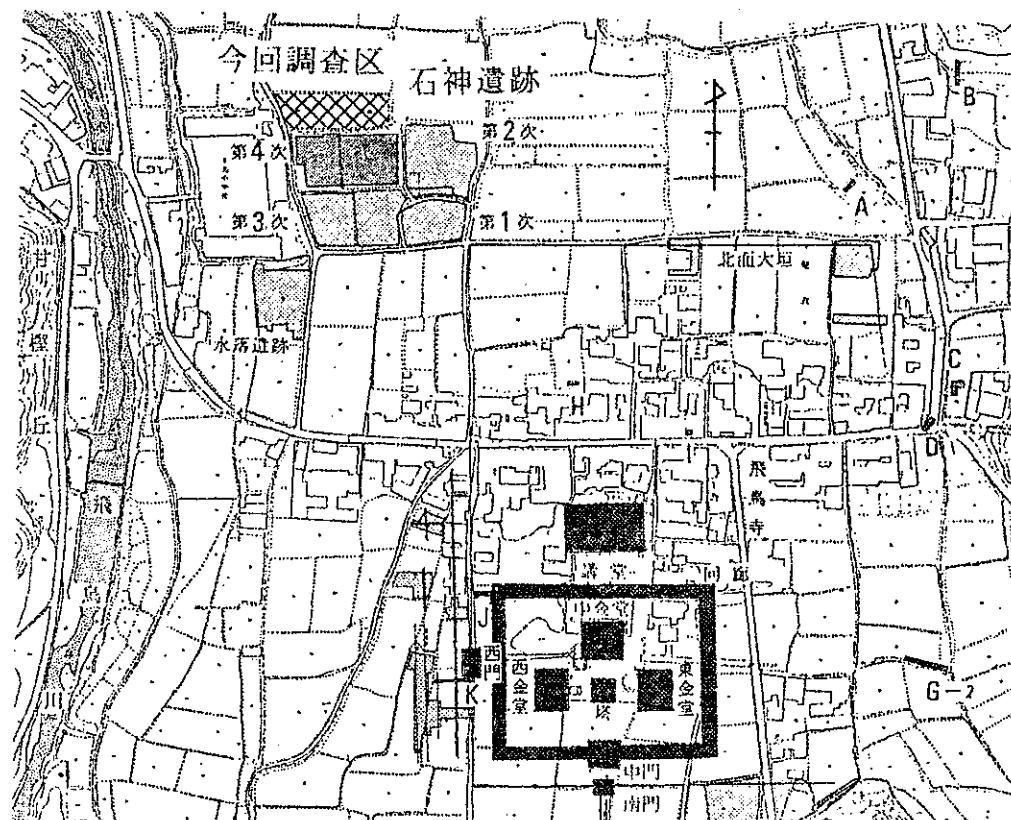
C・D期は藤原宮の直前、および藤原宮の時期であるが、この地域が数条の堀で区画されていたことが再確認できた。遺構の配置など、検討しなければならない問題はあがあるが、7世紀から8世紀初頭までこの地域が利用されていたことの意義は大きいものであろう。

これまで5回の調査をへて確認できたことは以下のとおりである。

① 斉明朝の井戸を中心とする遺構の変遷を知ることができた。② 天武朝には大規模な造成が行なわれ、性格を一変しながらも重要な地域として使用された。③ 藤原宮の時期までも、この地域が引き続き使用されていた。

以上のことが判明したことはこの地域の性格を明確にするうえでも大きな意義があろう。

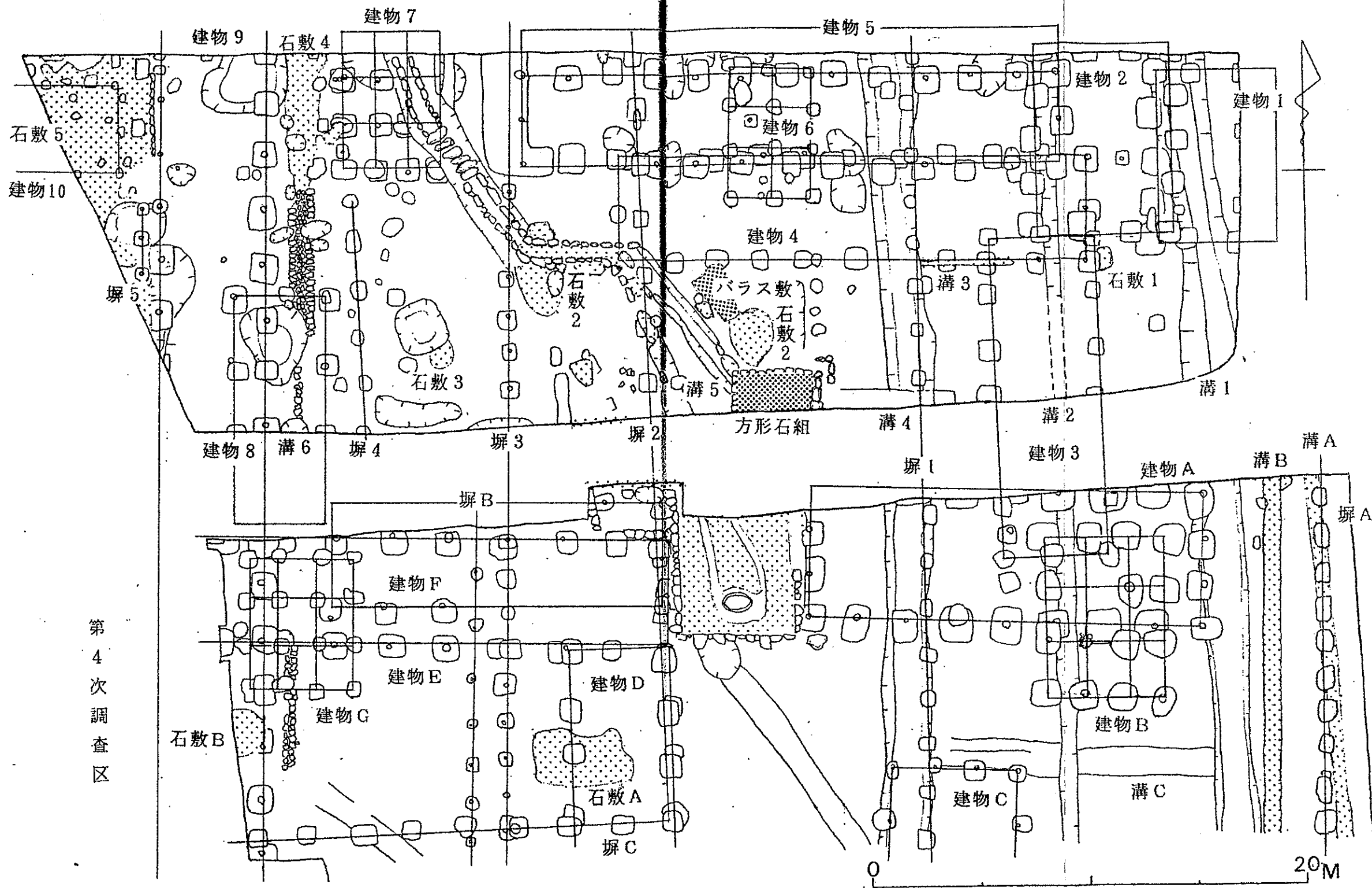
しかし、各時期の遺構の具体的な性格、およびその範囲の確定までにはいたっていない。これらのことについては今後の調査を期待したい。



時期	種類	方向	規模 (単位m)	備考
A-1	建物 4	東西棟	10×2間	21.5×4.8
A	建物 1	南北棟	4×3間	8×(6.5)
	建物 5	東西棟	12×3間	25×(6.3)
	建物 7	南北棟	3×3間	(6.3)×6
	建物 9	南北棟	16間以上×2間	
	塀 5	南北	2間以上	
	溝 5			幅 0.6, 深 0.6
	溝 6	南北		幅 1.2
	石敷 2			建物9の東雨落溝
	石敷 5			井戸SE800 北側 建物9西側
B	建物 2	南北棟	4×3間	8.5×6.5
	建物 8	南北棟	3×2間	(10)×4.2
	塀 3	南北		
C	塀 1	南北		柱間 2.1m
D	建物 3	南北棟	6×2間	14.8×4.8
	建物 6	南北棟	3×2間	6×4
	建物 10	東西棟	2間以上×2間	
	塀 2	南北	5間以上	
	塀 4	南北		
	溝 1	南北		
	溝 4	南北		
	方形石組			総柱
	石敷 3			柱間 2m等間
	パラス敷			柱間 2.5m 柱間 2.1m

遺構変遷図

石神遺跡第5次調査遺構概略図



第4次調査区

20M